

総合的な学習 / 探究の時間「活性化」フォーラム

総合をもっと
元気にするために、
今、わたしたちにできること！

京都女子大学
岩崎 保之 研究室



はじめに

この冊子は、日本学術振興会「科学研究費助成事業」基盤研究(C)「『総合的な学習の時間』をチームとしての学校で活性化するストラテジーの研究開発」(研究代表：岩崎保之、研究課題／領域番号:18K02551)の研究成果報告書として刊行するものです。この研究は、チームとしての学校で「総合的な学習の時間」を活性化するために汎用的に実施できるストラテジー(戦略：方策や取組の組み合わせ方を表した道筋)を、具体的なタクティクス(戦術：具体的な方策や取組)とともに開発することを目的としています。

知識基盤社会を生き抜く資質・能力の育成、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメントなどを旨とする学習指導要領において、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」はそのコアとも言うべき領域であり、更なる活性化が望まれています。しかしながら、新しい教科やGIGAスクール構想への対応、新型コロナウイルス感染症への対策といった喫緊の課題に追われ、「総合」については後回しになっている学校も多いことと思います。

この冊子では、研究成果報告会としてオンライン開催した「総合的な学習／探究の時間『活性化』フォーラム」での報告やテーマ別に協議した様子をご紹介します。困難な状況下にあっても「総合」を元気にするためにはどうしたら良いか、参加したみなさんと熱く語り合いました。

この冊子を傍らに置いていただき、各学校で「総合」を活性化させるストラテジーを話し合う際の手引きにしていいただければ幸いです。



岩崎 保之
(京都女子大学 教授)

ゲスト講師

小川雅裕(新潟市立小針小学校 教諭)、今井俊彦(京都府京丹波町立和知中学校 教諭)、宮崎芳史(新潟県立新潟南高等学校 教諭)

運営支援

特定非営利活動法人みらいずworks (小見まいこ、角野仁美、瀬倉隆博、小林さやか、木村有希、中村華子、乙川文香)



Contents

目次

目次	1
フォーラム概要	2
「総合的な学習の時間」を チームとしての学校で活性化する ストラテジーの研究開発	3
テーマセッション① コロナ禍・GIGAスクール	8
テーマセッション② 教科横断・カリキュラムマネジメント	9
テーマセッション③ 学校経営・後進育成	10
テーマセッション④ 資質・能力の設定と評価	11
フォーラム参加者の声	12

総合をもっと元気にするために、 今、わたしたちにできること！

フォーラム概要

日 時：2022年2月20日(日) 13:00～17:00

会 場：オンライン (zoom)

参加者：35名 (運営・ゲストの11名を除く)



プログラム

▶ オリエンテーション・導入ワーク

▶ アンケート調査の結果報告

岩崎 保之 氏(京都女子大学)

「総合的な学習の時間」をチームとしての学校で活性化するストラテジーの研究開発

▶ ゲストによる事例紹介

【小学校】

コロナ禍におけるICT端末を活用した総合的な学習の実践

ゲスト講師：小川 雅裕 氏(新潟市立小針小学校 教諭)

【中学校】

自己調整学習の個人探究「和知ゼミ」の取組

ゲスト講師：今井 俊彦 氏(京都府京丹波町立和知中学校 教諭)

【高等学校】

生徒の当事者意識・困り感から始まる実践型「探究」カリキュラム

ゲスト講師：宮崎 芳史 氏(新潟県立新潟南高等学校 教諭)

▶ 分科会でテーマセッション

テーマ1: コロナ禍・GIGAスクール

テーマ2: 教科横断・カリマネ

テーマ3: 学校経営・後進育成

テーマ4: 資質・能力の設定と評価

コメンテーター: 小川 雅裕 氏

コメンテーター: 今井 俊彦 氏

コメンテーター: 岩崎 保之 氏

コメンテーター: 宮崎 芳史 氏

▶ まとめ

「総合的な学習の時間」を チームとしての学校で活性化する ストラテジーの研究開発

—アンケート調査の結果に見る、「総合」を活性化させるための取組—
岩崎 保之 (京都女子大学)

京都女子大学岩崎保之研究室では、小・中学校における「総合的な学習の時間」や高等学校における「総合的な探究の時間」(2つをまとめて「総合」と略記)を活性化させるための取組を明らかにするため、校長先生と総合学習部主任など「総合」の推進を担当している先生(「推進担当教員」と略記)を対象とした全国規模のアンケート調査を行いました。

以下、調査の概要と統計学の方法で分析した結果をご紹介します。小・中・高等学校の別に示されている因子【 】はストラテジー(戦略)として、因子の下位項目□はタクティクス(戦術)としてお読みください。

1 調査の概要

目的：「総合」の活性化に影響する校長／推進担当教員の取組を明らかにする。

対象：無作為に抽出した全国の公立小・中・高等学校の校長／推進担当教員、それぞれ4,308人。

時期：2021年9月中旬～10月中旬

方法：調査票／オンラインによる無記名自記式

有効回答数／有効回答率：

校長：1,146件(小学校389件、中学校366件、高等学校372件)／26.2%

推進担当教員：1,017件(小学校337件、中学校332件、高等学校348件)／23.6%

倫理的配慮：京都女子大学臨床研究倫理審査委員会による審査を受審(許可番号2021-6)

2 調査内容

大問1：学校と回答者のプロフィール

大問2：勤務校の「総合」の現状に関する認識(21項目)

大問3：校長／総合推進担当教員としての取組(25項目)

大問4：「総合」活性化に関する意見や取組の具体

3 分析の方法

大問1：下位項目を単純集計した。

大問2／大問3：それぞれの下位項目を単純集計して全体の傾向を把握した上で、因子分析をして学校における「総合」の状況を表す因子(大問2)と、校長や推進担当教員の取組を表す因子(大問3)を抽出した。その後、大問2の因子を基準変数、大問3の因子を説明変数とする重回帰分析を行って、「総合」の活性化に影響している校長や推進担当教員の取組を抽出した。

〈参考〉・IBM SPSS Statistics(version 23、release 23.0.0.0)を使用した。

・リッカート尺度(順序尺度)を量的変数(間隔尺度)として扱った。

・有意水準を5%とした。

4 主な調査結果

A 小学校

■活性化している学校の特徴

●校長から見て

「総合」の職員研修が活発である。
特色ある「総合」が実施されている。
地域の方々と対話している。
「働き方改革」が進んでいる。



■活性化している学校での取組

●校長

【職員研修の充実】

- 「総合」の研究指定を受けたり、懸賞論文などに応募したりしている。
- 「総合」を推進するための校内委員会を設け、定期的を開催している。
- 「総合」に充てる予算の更なる充実を行政に働きかけている。
- 自らの指示で職員研修(全部又は一部)に「総合」を位置付けている。

【学校の特色づくり】

- 学校の特色や独自性との関わりで「総合」を考えている。
- 自校の教育課程の中心に「総合」を位置付けて学校経営を考えている。
- 地域課題の解決に貢献することを意識して「総合」を考えている。

【地域との対話】

- 地域の関係者と日常的に話をしている。
- 社会教育施設や各種団体の関係者と日常的に話をしている。

【時間の確保】

- いわゆる「学校における働き方改革」に積極的に取り組んでいる。
- 「総合」の実際の授業時数や取組状況を把握するようにしている。

●推進担当教員から見て

指導計画が授業が共有されている。
カリキュラム・マネジメントが意識されている。
推進担当教員が地域に出ている。
校長と話し合っている。
地域の方々と対話している。



●推進担当教員

【カリキュラム・マネジメント】

- 「総合」を教科等と関連させて計画するよう、同僚に働き掛けている。
- 学校全体の「総合」の計画を毎年見直して、改善するようにしている。
- 「総合」の授業時数を適切に確保するよう、同僚に働き掛けている。

【地域との対話】

- 地域の関係者と日常的に話をしている。
- 地域コーディネーター(類似した職を含む)と緊密に連携している。

校長の声

- ・とても面白い「総合」をして、地域から高い評価を受けました。先生方をいっぱいほめました。
- ・私の思っていることを研究主任がかみ砕いた言葉で先生方に伝えてくれました。校長ではなくミドルリーダーが言うとはり違うかなってというのがあります。
- ・先生方が授業に専念できるよう、地域との調整は校長と教頭が全部やりました。

推進担当教員の声

- ・活動ありきの「総合」だったので、ファシリテーションで見直す場を設けました。
- ・地域コーディネーターと一緒に地域コミュニティセンターに行って、職員の方から地域のニーズを伺いました。

B 中学校

■活性化している学校の特徴

●校長から見て

「総合」の目標等が明確になっている。
教職員が熱心に「総合」に取り組んでいる。
地域との連携・協働が進んでいる。
探究的な学習活動が充実している。



■活性化している学校での取組

●校長

【学校の特色づくり】

- 学校の特色や独自性との関わりで「総合」を考えている。
- 自校の教育課程の中心に「総合」を位置付けて学校経営を考えている。
- 地域課題の解決に貢献することを意識して「総合」を考えている。

【取り組み状況の把握】

- 「総合」の実際の授業時数や取組状況を把握するようにしている。
- 「総合」の授業を日常的に参観し、教職員をほめるようにしている。
- 「総合」を推進するための指導体制(校務分掌など)を明確にしている。

【外部への発信】

- 「総合」の取組を積極的に外部に発信するようにしている。
- 学校運営協議会などの場面で「総合」を話題にするようにしている。

●推進担当教員から見て

教職員が熱心に「総合」に取り組んでいる。
「総合」の目標等が明確になっている。
地域との連携・協働が進んでいる。
全般的な手応えがある。



●推進担当教員

【校長との協議】

- 「総合」について、校長と日常的に話をしている。
- 「総合」に関する校長の方針や考えを、同僚に説明している。
- 「総合」について、関連する校務分掌の担当者と日常的に話をしている。
- 各学年の「総合」担当教員(窓口の先生)と日常的に話をしている。

【情報の収集・発信】

- 自校の「総合」の取組をウェブサイトなどで発信している。
- 「総合」の学習課題や教材となり得る地域の教育資源を開拓している。
- 「総合」に関する学会や研究会などに自ら参加している。
- 「総合」の計画や学習指導案、授業を同僚と検討する場を設けている。

校長の声

- ・年度の最初に方針を示しました。その後、夏休みと冬休みに進み具合を全体で確認しました。
- ・地域の新聞や市の広報誌に取り上げてもらえるように働き掛けました。地域の人から「〇〇中学、元気あるね」と声を掛けてもらって、先生方も前向きになりました。

推進担当教員の声

- ・校長先生のアイディアをお聞きしながら、各学年部に応じた「総合」をやりたいか考えてもらって調整しました。
- ・地域の自治会の会議に顔を出して、今年と来年こういう「総合」のをやるので協力してください、とお願いをしました。

C 高等学校

■活性化している学校の特徴

●校長から見て

地域との連携・協働が進んでいる。
教職員が熱心に「総合」に取り組んでいる。
「総合」の目標等が明確になっている。
カリキュラム・マネジメントが意識されている。



■活性化している学校での取組

●校長

【推進組織の充実】

- 優秀な教員を「総合」の推進担当（総合部主任など）に任命している。
- 「総合」を推進するための校内委員会を設け、定期的に開催している。
- 「総合」について推進担当（総合部主任など）と日常的に話をしている。
- 「総合」を推進するための指導体制（校務分掌など）を明確にしている。
- 「総合」をPDCAサイクルに載せて実施し、改善するようにしている。

【学校の特色づくり】

- 学校の特色や独自性との関わりで「総合」を考えている。
- 自校の教育課程の中心に「総合」を位置付けて学校経営を考えている。
- 地域課題の解決に貢献することを意識して「総合」を考えている。

【予算の確保】

- 「総合」の研究指定を受けたり、懸賞論文などに応募したりしている。
- 「総合」に充てる予算の更なる充実を行政に働きかけている。

【時間の確保】

- いわゆる「学校における働き方改革」に積極的に取り組んでいる。
- 「総合」に限らず授業について教職員が話し合う時間や場を設けている。

●推進担当教員から見て

「総合」の目標等が明確になっている。
地域との連携・協働が進んでいる。
教職員が熱心に「総合」に取り組んでいる。



●推進担当教員

【地域との対話】

- 地域の関係者と日常的に話をしている。
- コロナ禍の以前は、地域の会合や行事に自ら参加していた。
- 地域コーディネーター（類似した職を含む）と緊密に連携している。
- 社会教育施設、専門機関、事業所等に赴いて、関係者と話をしている。
- 「総合」の学習課題や教材となり得る地域の教育資源を開拓している。

【同僚への支援】

- 「総合」に関する教員間の意見の違いや利害関係を調整している。
- 仕事以外のことについても、日常的に同僚と話をしている。
- 「総合」に関して同僚に声を掛けたり、相談に乗ったりしている。
- 「総合」の計画や学習指導案、授業を同僚と検討する場を設けている。
- 「総合」に関する業務をマニュアル化し、教職員の役割を明確にしている。



校長の声

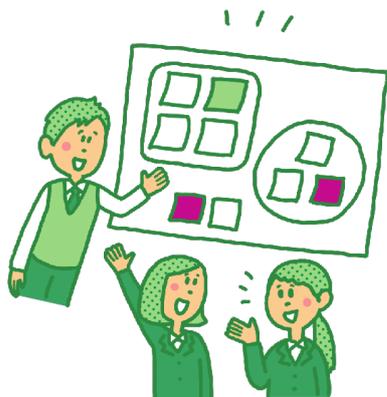
- ・地域の方に授業を見ていただき、生徒との距離を縮めて関係を作っていたところから始めました。
- ・学校のある町だけではなく、多くの生徒が住んでいる町の課題も取り上げました。
- ・様々な事業に手を挙げて研究予算を確保しました。
- ・活動や話合いの時間を確保するために、学校行事を見直しました。

推進担当教員の声

- ・実際に企業や地域の方々から課題をもらって、それを生徒たちが探究して解決策を提案し、フィードバックを受けました。
- ・単元の計画、毎時間の指導案とワークシートを全部作って、学年の先生方には「こんなふうにやってもらえればオーケーです」みたいな感じで協力してもらいました。

【文献】

- 岩崎保之（2021）「中学校『総合的な学習の時間』を活性化させる校長及びミドルリーダー教員の役割」京都女子大学発達教育学部紀要、17、pp.91-101.
- 岩崎保之（2021）「高等学校『総合的な学習の時間』を活性化させる校長及びミドルリーダー教員の役割」京都女子大学生生活福祉学科紀要、16、pp.9-18.
- 岩崎保之（2022）「『総合的な学習／探究の時間』活性化の認識に影響する校長及び総合推進担当教員の取組」京都女子大学生生活福祉学科紀要、17、pp.49-58.



Theme 1

コロナ禍・GIGAスクール

実際に総合学習の学びを促すために、どの場面でICTを使えそうか？



【総合的な学習／探究の時間「活性化」フォーラム】

2022年2月20日（日）

分科会 テーマ1：コロナ禍・GIGAスクール（小川教諭）

特に総合で困っていることなども含む

『実際に総合学習の学びを促すために、どの場面でICTを使えそうか？』

総括

・デジタルがあるから使用しなくてはいけないではなく、使いたい（使った方がいい）場面と、アナログ（対面）でやった方がいいところを見分けてはいけない
→そのためには、教師が使用するツール、もしくはクラスの状況を見分ける力が必要

① 今はiPadが導入されたばかりで、何でもかんでもICTになってしまっている。

→

ツールは先生方も学ばなくてはならない

思考ツールなどをどのように活用していくのが教師の裁量に任せられているが、打率が低い
→ 一歩先に進んだ思考ツールを使用しなくては、うまく活用できないのでは

②

整理・分析の場面でこそ、本来は活用したいが、今の段階ではアナログの方がよさそう。

情報の収集、まとめ・表現では迷いなく、使うべき。

共同編集の場が無言の時間になってしまう。
タイピング・スケッチにに時間取られる

ジャムボード、ロイロのブラウザ版で思考ツールの共同編集を使い初めているが、本来は離れているチーム向けなのかなと思っている。

ロイロで、共有をかけたときに、読んで満足問題がある。やはりその後の話し合いこそ、対話の意味がある。現在は、比べる（同じ、違う、面白い、聞いてみたい）ところから、話し合いを加速するようにしている。

アナログのものを授業支援クラウドを使って比較などを行う

手を動かして発話した方が思考の化学反応が起きそうという実感
→同じシンキングツールなのに

タイピングなどに思考を持っていかれる、図や絵に意識を持っていかれる

使用ツールの精査必要。

③

外部の方との対面が難しいので、Zoomでつなく方向でおこなっている。

■事例

地域をよりよくする活動
→自治会長からお話を聞く
→コロナで対面できず...
→学校のボランティア室からzoomを繋ぐ

※生のお話は聞けるけど、雰囲気や空気感を感じ取れない（＝ホンモノと出会えない）
※特に1:多数の時

↓

本物との出会いも大切にしたいので、嬉しい

課題を設定する場面ではできる限り、あえて熱量や必要感を話してもらった方が火がつく
→ICTがあれば「聞けるだけ」マシ！
→今まで出会えなかった人との出会い

デジタルとアナログのハイブリッド！

ポイント

Point

ICTは万能ではない

「今はICT端末が導入されてなんでもかんでもICTになってしまっている」という意見が示された。「ICT端末があるから使用しなければならない」のではなく、クラスの状況を見分け、学習内容に応じたツールをデジタル・アナログ問わず選定していくことが必要である。

Point

デジタルとアナログのハイブリッドが理想

デジタルツールにもアナログツールにも、それぞれの良さがあるという意見が示された。「情報収集・まとめ表現」の場面では迷いなくICTを使うべきだが「整理分析」の場面ではアナログの方が効果的だと感じることも多いため、ハイブリッドで活用していくことが理想である。

Theme 2

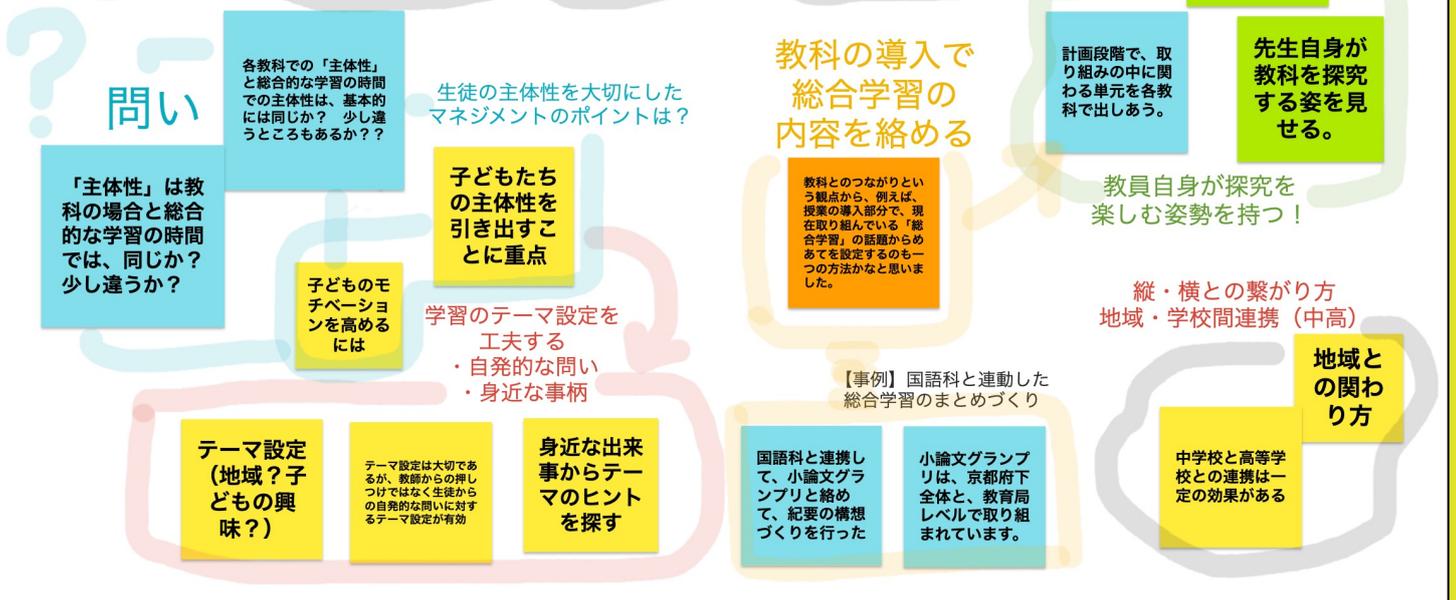
教科横断・カリキュラムマネジメント 総合的な学習の時間での実践と 各教科をつなげて深い学びを促すために、 どんな工夫や働きかけが必要なのか？



【総合的な学習／探究の時間「活性化」フォーラム】
分科会 テーマ2：教科横断・カリマネ（今井教諭）

2022年2月20日（日）

総合的な学習の時間での実践と各教科をつなげて深い学びを促すために、
どんな工夫や働きかけが必要なのか？



ポイント

Point

生徒の主体性を引き出すテーマ設定

地域課題解決型の学習テーマも良いが、生徒にとっての「自発的な問い」や身近な出来事からヒントを探し、学習テーマを設定することが大切である。生徒の好奇心・主体性が各教科の学びを自身の関心・テーマと結びつける原動力になるため、ここがカリマネの鍵と捉える。

Point

教員自身が探究を楽しむ

計画通りに進めようとせず、創りながら動きながら、総合的な学びづくりを進めていく。そういう探究的なプロセスを教員自身が楽しみ、その姿を子どもたちに見せることが大切である。総合の計画段階で、総合と関わらせる単元を各教科で出し合い、ともにつくる姿勢が必要である。

Theme 3

学校経営・後進育成

研究で明らかになったストラテジーをどのように実践に繋げていくか？

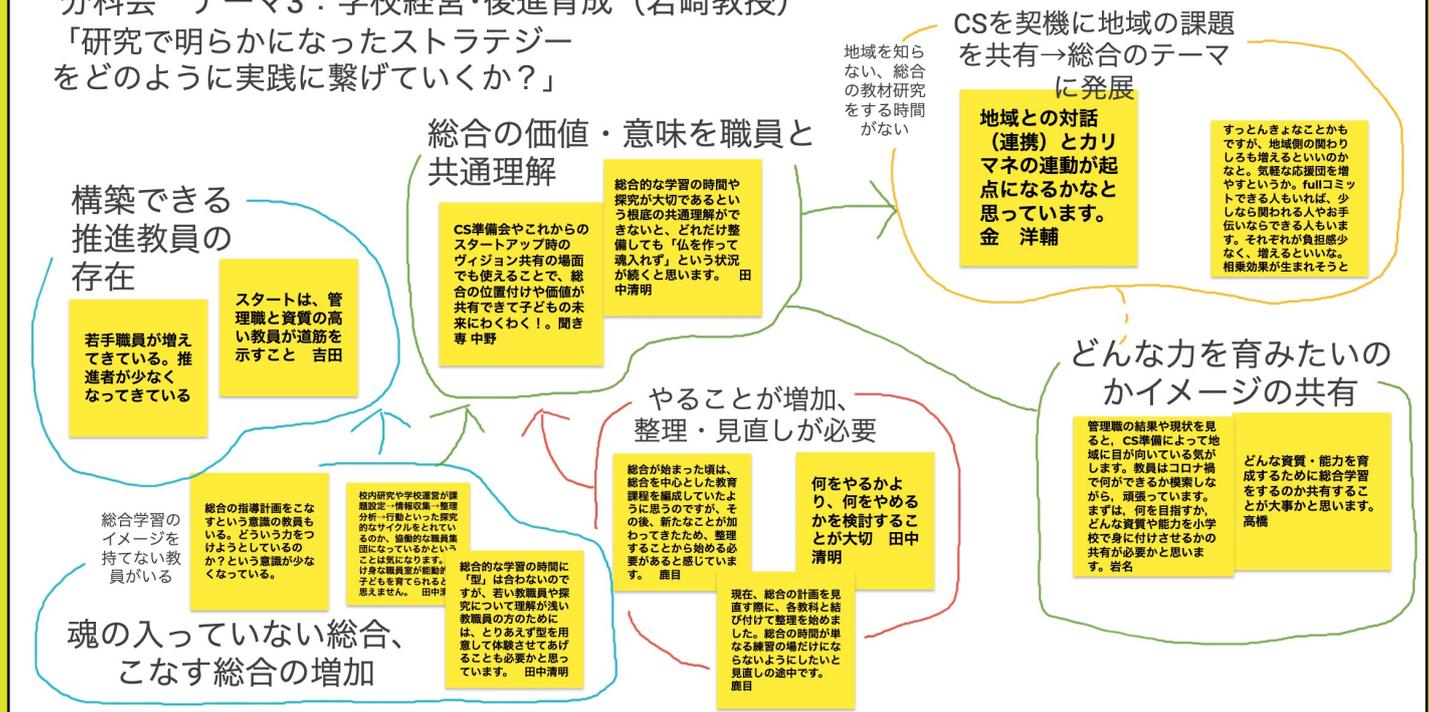


【総合的な学習／探究の時間「活性化」フォーラム】

2022年2月20日（日）

分科会 テーマ3：学校経営・後進育成（岩崎教授）

「研究で明らかになったストラテジーをどのように実践に繋げていくか？」



ポイント

Point

総合の価値を校内で再確認する

学校内の計画でやることの整理・見直しをした上で、総合の価値や位置付けについて教職員と共通理解をはかる。また、校内で総合学習のカリキュラムを構築・推進できる教員を見出し、育てていくことも大切である。

Point

地域と育てたい力と課題を共有 総合のカリマネへとつなげる

育みたい資質・能力を教職員や地域と対話して共有する。切実な地域課題を学校運営協議会で出してもらい、総合のテーマに練り上げるなどして、地域と対話しながら互いに相乗効果が生まれるような実践や働きかけを行うことが必要である。

Theme 4

資質・能力の設定と評価



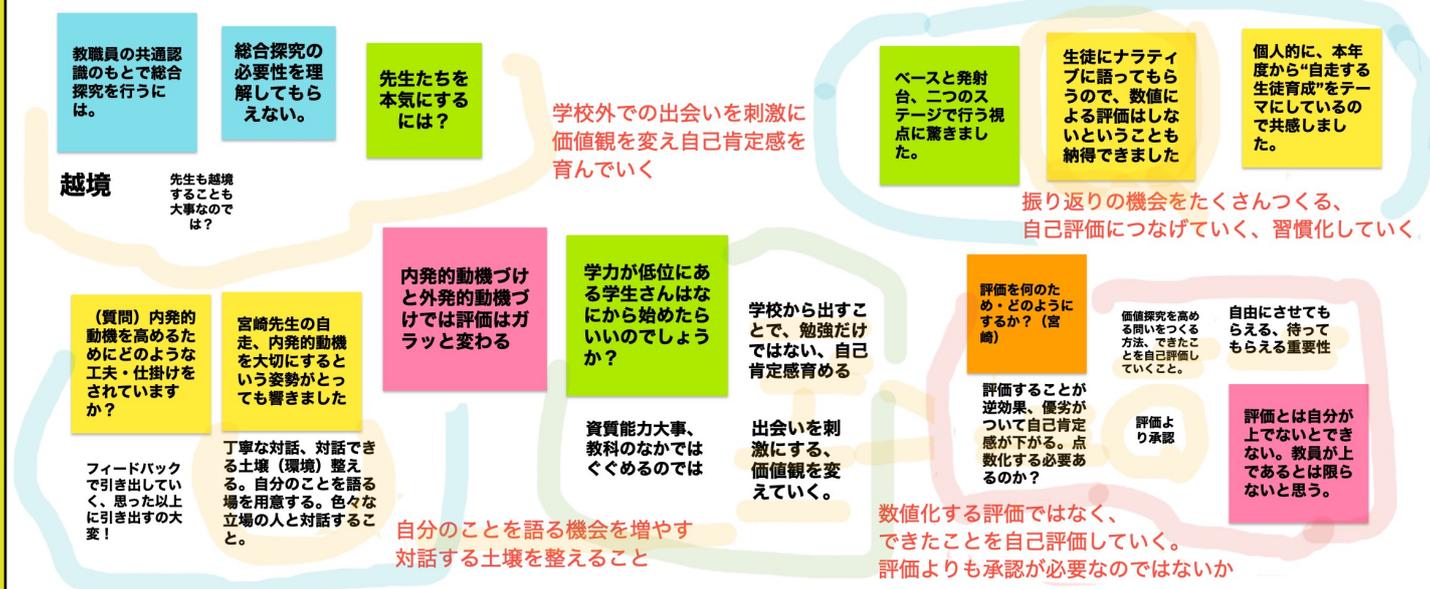
資質・能力を伸ばす仕掛けとして、 評価・フィードバックをどのように活かすか？

【総合的な学習／探究の時間「活性化」フォーラム】

2022年2月20日（日）

分科会 テーマ4：資質・能力の設定と評価（宮崎教諭）

資質・能力を伸ばす仕掛けとして、 評価・フィードバックをどのように活かすか？



ポイント

Point

学校外での出会いの機会を増やすことが自己肯定感を育む

子どもたちを地域に出して学校外での出会いの機会をつくるのが重要。学校外の様々な立場の人と対話し、自分自身のことを語る場面をできるだけ多くつくることで自己肯定感を育んでいくのではないかな。

Point

自己評価する

数値化する評価では、優劣がついて自己肯定感が下がってしまう。特にマイテーマを探究していく場面においては、できたことを自己評価していくことが大事。周りの大人は「評価より承認」していくマインドセットが必要である。

フォーラム 参加者の声

他校種の先生の実践や考え方を
知るよい機会となった。先
生方が思考錯誤しながら教育
を行っていることがよくわか
り、励みになった。

総合を活性化したいと思ってい
る探究大好きな人たちに、画
越しでお会いすることができて
嬉しかったし、元気をもらうこ
とができた。

総合的な学習を熱心に取り
組まれている先生方のお話
を聞くことができ、改め
て総合で目指すこと、総合
の魅力を感じました。明日
からの活力になりました。

他校種の先生の実践や
考え方を知るよい機会
となりました。

総合を進める上で悩んでいたこ
との解決策、これからの提言な
どがたくさん聞いて大変勉強に
なった。

気づき・学び

見えてきたこと

- 統計をもとにそれぞれの考えを述べあうことで、話し合いの信頼性が高まると思った。
- 総合の計画の見直しや若手教員、地域住民の視点からのとらえ直しが必要ではないかと考えた。
- ハイブリッドというキーワードになったように思う。良い点をどんどん組み込み作り上げることが大切だと思った。
- 研究成果から総合的な学習を学校づくりの中にどのように位置づけていくかのヒントが得られた。
- 地域性と生かしたテーマと生徒主体のテーマのどちらかではなく、3年間を通してハイブリッドで実施していくこと、カリマネの観点からも教科横断的な授業づくりをしていくこと、教員側の見切り発車であっても試行錯誤しながら授業をつくり上げていくことで探究につながること等、多くを学ぶことができた。
- 子どもとともに探究のプロセスを工夫していく大切さに気づいた。
- 他校種とこのような形で交流できる機会は貴重であり、大事だと思った。取り組みの参考になるのはもちろんだが、縦のつながりで総合的な学習/探究の時間を考えていくということも大事になると感じた。



現場に活かしたいこと

- 今日の発表や参加者の方の声をもとに、管理職の立場として、まずは先生方が、「総合っておもしろい！」と思うような研修や働きかけをしたり、子どもたちの柔軟な発想、思考を伸ばすことのできる場づくりを地域の方と連携して考えることができる風土、校内環境を作っていきたい。
- 子どものよりよい探究に向けて、ICTを有効に活用していきたい。
- 新たな取り組みや、対象ニーズに合わせた実践には対話が大事であること。
- 地域とのつながりを持続可能な形で進めること。そして、探究に理解を示してくれる教員から巻き込んでいくこと。何もかも手を広げるのではなく、信念を持って取り組んでいきたい。
- 今のスタンスから越境することができる楽しい仕掛けを作っていきたい。
- デジタルとアナログ、与えられたテーマと自分のテーマ等、融合させながら取り組んでいけるよう心掛けたい。
- 校内担当者会において、学年ごとに、カリマネの観点から9教科＋総合の年間指導計画を作成していきたい。
- 内発的動機づけに振り切る挑戦を続けることと、ハイブリッドのベストミックスを探り続けること。

おわりに

フォーラムには教育に熱い思いを抱いている方々が全国各地からオンラインで参加し、立場や年齢の違いを超えて「総合」を語り合ってくださいました。この冊子では、みなさんから頂いた「総合」を活性化させるためのアイデアやヒントを盛り込みました。ぜひ参考にいただき、「総合」に元気よく取り組むためのエネルギー源にしていだければ幸いです。

最後になりましたが、面接調査やアンケート調査にご協力いただいた先生方、授業を参観させていただいた先生方、研究環境の整備に尽力くださったみなさま、そしてフォーラムの運営や本冊子の製作を支援してくださった特定非営利活動法人みらいずworksのみなさまに感謝申し上げます。

人とのつながりを実感できる「総合」って、本当にいい時間ですね。（岩崎保之）

自分のできるところから
始めよう!

Thank you for coming!



現場での実践を活性化して、
日本全国の総合をもっと元気に!

科研費
KAKENHI

本研究はJSPS科研費JP18K02551の助成を受けたものです。
This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number
JP18K02551.

総合的な学習／探究の時間「活性化」フォーラム

総合をもっと元気にするために、
今、わたしたちにできること。

2022年3月1日発行

著者 岩崎保之・特定非営利活動法人みらいずworks

発行 京都女子大学岩崎保之研究室

©2022 Yasuyuki Iwasaki and Miraisworks

Published in Japan